

窪田委員（自民議連）

平成 31 年 2 月 26 日

教育長 答 弁 実 録

（ 教 育 委 員 会 ）

（問） 広島叡智学園の入学者選抜結果について

昨年度の予算特別委員会で、広島叡智学園の中学校入学者選抜の考え方を質問した際、教育長は「英語力は、問わない。主体的に学びたいという意欲や思考力、他者と協働する力など、面接や2泊3日の合宿などを通して選抜する。」と答弁した。

昨年11月に第1次選抜、12月に第2次選抜を行い、去る1月8日に合格者発表を行ったところであるが、面接や合宿を通じて、どのような人材を選んだのかなど選抜試験の基本的な考え方について、教育長に伺う。

（答）

広島叡智学園中学校の入学者選抜におきましては、「社会の持続的な平和と発展に向け、世界中のどこにおいても活躍できる人材の育成」を目指す学校の特色を考慮し、当該学校に対する意欲・適性等を判断して実施したところでございます。

具体的には、適性検査や面接、グループワーク等を通して、

- ・ 「課題の解決に向け、資料を基に柔軟な発想で自らの考えや思いを文章で表現する力」や
- ・ 「コミュニケーション力や他者と協働して課題を解決しようとする力」などを評価したところでございます。